

高病原性鳥インフルエンザから 愛玩鶏を守るために



平成20年10月

社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会

高病原性鳥インフルエンザってどんな病気ですか？

- ①「高病原性鳥インフルエンザ」は、鳥インフルエンザウイルス(写真1)の中で、特に病気を起こす力が強い種類のウイルスによって起こる病気です。
- ②高病原性鳥インフルエンザウイルスは、この病気の発生地域からカモなどの渡り鳥によって持ち込まれ、これらの糞などを介して様々な野鳥や野生動物(ネズミなど)等にうつり、感染が拡大していきます。
- ③このウイルスに感染した鶏は元気がなくなったり(写真2)、餌を食べなくなったり、羽毛を逆立てたりして、高率に死亡します。中には症状もなく急死するものもいます。

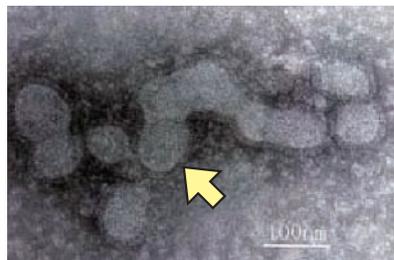


写真1 電子顕微鏡でみた鳥インフルエンザウイルスの写真



写真2 感染し、元気をなくした鶏

愛玩鶏と高病原性鳥インフルエンザ

- ①近年、高病原性鳥インフルエンザは諸外国で発生しており、日本でも平成16年から19年まで毎年発生しています。
- ②愛玩鶏(東天紅、オナガドリ、チャボ、地鶏、シャモ、ウコッケイなど)も、高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染すると鶏と同様の症状を示し、死亡します。日本ではほとんどが養鶏場の鶏に発生していますが、平成16年の時は一般家庭の愛玩鶏(チャボ)にも発生しました。
- ③飼育小屋やその周辺に、高病原性鳥インフルエンザウイルスに感染した野鳥やネズミなどが侵入すると、愛玩鶏が感染しやすくなります。
- ④愛玩鶏が高病原性鳥インフルエンザウイルスにかかった場合は、法律に基づいて、最寄りの家畜保健衛生所に届出をする必要があります。

● 高病原性鳥インフルエンザから愛玩鶏を守るためのポイント ●

高病原性鳥インフルエンザウイルスの侵入を防止しましょう!

〈日常の飼育管理の徹底を!〉

- ①毎日、愛玩鶏を観察し、飼育小屋やその周辺を清潔に保ちましょう。
- ②世話をした後は、手洗いやうがいをしましょう。
- ③他の養鶏場や仲間の飼育場への立入は自粛しましょう。

〈野鳥等と接触させない!〉

- ①小屋に金網や防鳥ネット(2cm角以下)を張り、隙間を塞ぐ。
- ②餌や水は小屋の中に置き、餌が小屋の周辺に散乱しないようにする(写真3)。
- ③衛生的な水道水や井戸水を与える。
- ④小屋のそばに野鳥や野生動物が好む実のなる樹木を植えることを避ける。

〈ウイルスを持ち込まない!〉

- ①世話をするときには、専用の履物、衣服を身につける。
- ②飼育場所の出入口に、踏込消毒槽やアルコールスプレーなどを設置し、出入の時に履物、衣服、手を消毒する(写真4)。



写真3 板を使った餌の散乱防止



写真4 人を介したウイルス侵入対策

高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は

- ①愛玩鶏の導入や仲間との交流(品評会を含む)はやめましょう。
- ②国内で発生があっても、直ちに家庭等で飼育している愛玩鶏に感染するものではありませんので、愛玩鶏を野山に放したり、処分することなく、冷静に対応しましょう。



愛玩鶏が**連続して死亡する**などの異常があれば、
次のいずれかの機関や動物病院へ**連絡して下さい**。

1. お近くの家畜保健衛生所

2. 地元の市町村役場

3. お近くの動物病院

高病原性鳥インフルエンザの発生予防のため、愛玩鶏を飼う時は野鳥や野生動物(ネズミなど)と接触しないようにしましょう。



社団法人全国家畜畜産物衛生指導協会

〒113-0034 東京都文京区湯島 3-20-9 緬羊会館内

TEL 03 (3833) 3861 FAX 03 (3833) 3864